

# 大滝ダム事業の完全実施と関係住民の安全確保

【提案先】 財務省、国土交通省

## 提 案 事 項

### 大滝ダム事業の完全実施と早期供用開始

- ・ 大滝ダムは治水、利水両面で必要不可欠なダムであり事業の完全実施と早期の供用開始
- ・ 既に本体工事が完成した大滝ダムの１日も早い効果発現のため平成２３年度完了予定とされている貯水池斜面地すべり対策（大滝・迫地区）の早期完了
- ・ 大滝ダム建設事業の早期完了のために必要な事業費の確保
- ・ ダム完成後の水源地域活性化方策による水源地域振興施策の推進

### 関係住民の安全確保

- ・ 地すべり対策による安全確保
- ・ 特に、地すべり対策事業により立ち退かれた白屋地区住民の移転先である、大滝地区の地すべり対策による安全確保

平成21年11月

奈良 県

## 現状と問題点

### 1. 洪水被害の発生

吉野川(奈良県)における洪水被害の状況					
	死者	家屋		浸水	
		全壊流失	半壊	床上浸水	床下浸水
H9.7 (台風9号)	—	1	—	3	吉野町調べ
H6.9 (台風26号)	—	2	1	22	39 吉野町調べ
H2.9 (台風19号)	—	1	11	36	30 奈良県調べ
S34.9 (伊勢湾台風)	113	—	—	6,171	4,054 奈良県調べ

紀の川（吉野川）では、昭和34年の伊勢湾台風をはじめ、平成2年、6年及び9年と近年でもたび重なる洪水被害が発生

流域住民の生命、財産を守るために、大滝ダムによる治水対策が必要

### 2. 渇水の発生

奈良県における上水・取水制限の状況					
H17			6/27 ~8/25	60	日間
H14		6/28~7/16 8/16~9/2		37	日間
H13			7/27~8/21	26	日間
H12			8/21~9/12	23	日間
(紀の川・室生ダム、自主節水を含む。)					

平成12年、13年、14年、17年と近年、渇水が頻発

平成19年、20年及び本年も渇水が懸念された。

大和平野を中心とした県民の生活用水の安定供給のために、大滝ダムによる安定利水が必要

また、地すべり対策工事中における渇水時の被害軽減のために、弾力的なダムの暫定運用が必要

### 3. 住民の安全確保

地すべり対策が必要な大滝地区は、白屋地区住民の移転先であり12世帯が居住

住民の安全安心のため早期の対策が必要

# 大滝ダム事業の概要について

## 1, 大滝ダムの概要

大滝ダム建設は、昭和34年9月の伊勢湾台風を契機とし、国土交通省により計画決定。、紀の川の治水とともに、大和平野を中心とした生活用水の安定供給を図る重要な事業。

堤 高：100m                      堤 頂 長：315m  
総貯水量：8、400万 $\text{m}^3$           有効貯水容量：7、600万 $\text{m}^3$   
利水流量：奈良県 3.5 $\text{m}^3/\text{s}$ 、和歌山県 3.5 $\text{m}^3/\text{s}$   
(予定)工期              昭和37年度～平成24年度※  
総事業費              3,640億円  
(※平成20年7月9日、第6回基本計画変更告示)

## 2, 大滝ダム建設事業の経緯

昭和37年 4月 実施計画調査に着手  
昭和63年12月 ダム本体工事に着手  
平成14年 8月 ダム本体コンクリート打設完了  
平成15年 3月 試験湛水開始  
平成15年 4月 白屋地区に亀裂発生  
平成17年12月 白屋地区地すべり対策工事に着手  
平成19年 7月 第6回基本計画の変更を同意  
平成20年 8月 迫地区の地すべり対策工事の契約  
平成20年 9月 大滝地区の地すべり対策工事の契約  
平成21年 2月 白屋地区地すべり対策工事完了

## 3, 大滝ダム建設工事の現況

大滝・迫地区の地すべり対策工事

工事概要：押え盛土工、鋼管杭工、アンカー工 等

工 期：平成20年度～23年度（予定）

平成24年度中には試験湛水を終え、その後、供用を開始する予定。